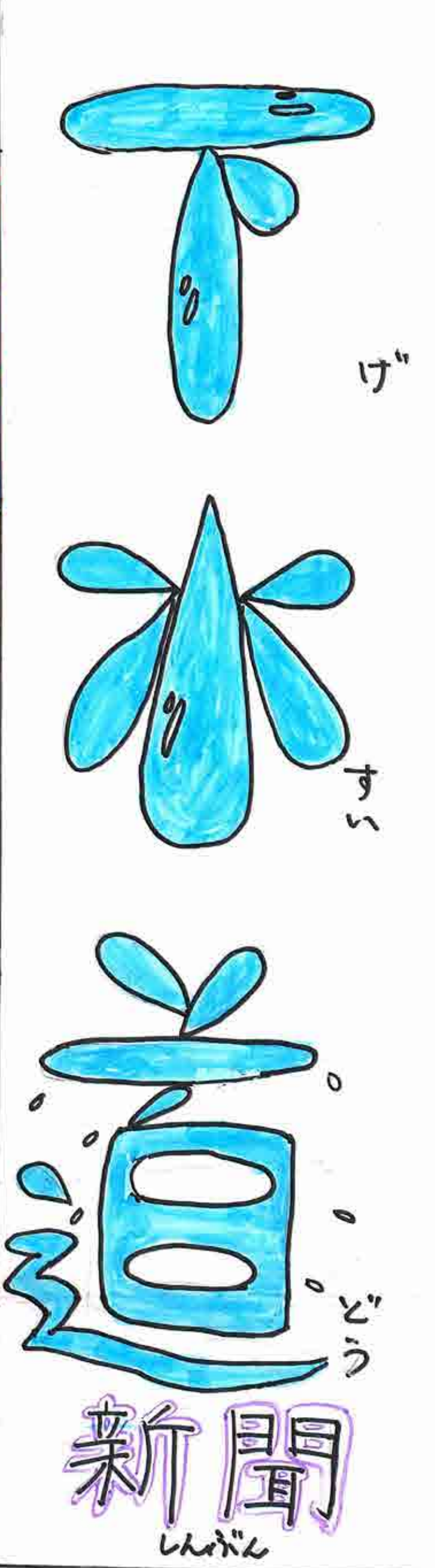
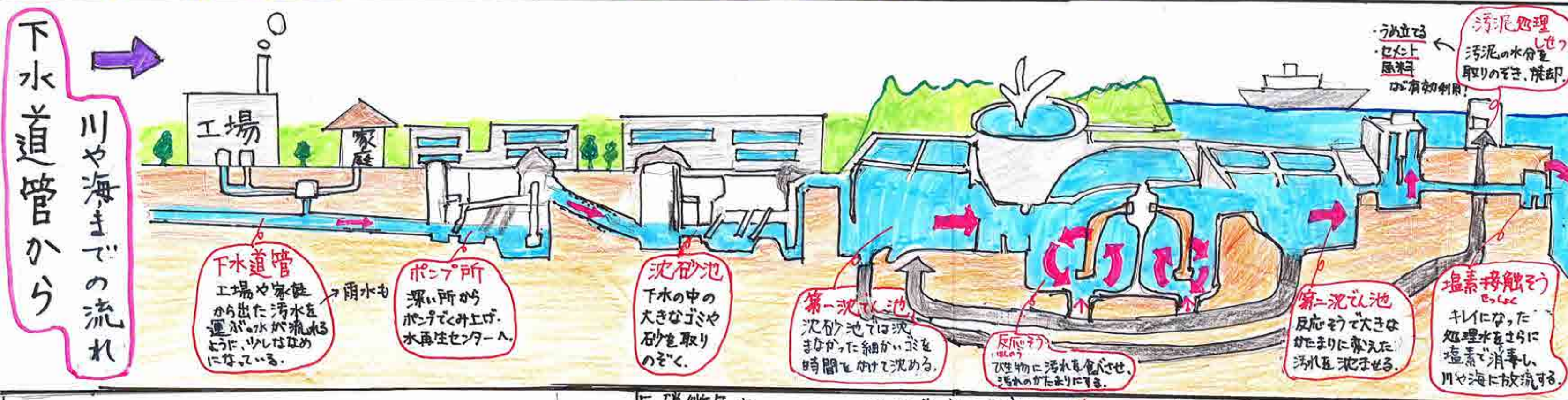


# 下水道のなぞをとき明かせ! in 水再生センター



## 下水処理の主役たち

<b>マクロビオス</b> (くまびし) 0.5~10mm 日本足そのほかに海外でも見られる。	<b>ムルクラ</b> 0.03~0.2mm 体は円筒形で、足を出して動く。	<b>アメーバ</b> 0.03~0.3mm 体の形が不定形。よく変化。	<b>エピステリス</b> 1~10μm 大腸菌のほかに、環境中の他の細菌も含まれる。	<b>ポルテイクラ</b> (つりかねむし) 0.025~0.125mm 糸を吐く。
<b>パラネマ</b> 0.06~0.07mm 長い足で泳ぐ。	<b>アスピラタ</b> (くわがせ) 0.025~0.025mm くわがせを吸って泳ぐ。	<b>ヒルガタムシ</b> 0.3~0.5mm シヤクシヤクした体で泳ぐ。	<b>ネズミムシ</b> 0.025~0.025mm 大腸菌のほかに、環境中の他の細菌も含まれる。	<b>ウサギムシ</b> 0.1~0.15mm 角の形が丸い。
<b>メダカ</b> 0.12~0.2mm 泳ぐ。	<b>イタムシ</b> 0.03~0.05mm 泳ぐ。	<b>アキネタ</b> 0.05~0.07mm 微生物の体を動かす。	<b>カエトリス</b> 0.22mm 泳ぐ。	<b>ゾウムシ</b> 0.12~0.3mm 回転しながら泳ぐ。
<b>ユープロテス</b> 0.045~0.023mm 泳ぐ。	<b>テラバムシ</b> 0.15~0.2mm 泳ぐ。	<b>エグザカリア</b> 0.045~0.023mm 泳ぐ。	<b>オバルテリア</b> 0.03~0.04mm 泳ぐ。	

**下水処理の役割**  
 快適な生活環境を確保!  
 浸水から街を守る  
 地球環境を守る

**水再生センターの特色(有明)**  
 微生物を自然のままの状態にする  
 下水に微生物を加え、空気を送り込まない状態に保てる。  
 微生物は体内のリンを排出し、おぼろげな状態になる。このリンを脱リン槽で取り除く。  
 無酸素槽で行う  
 好気槽から戻った処理水と混合し、空気を注入して水中の微生物の動きで水中の硝酸窒素が空気に変わって放出される。

**水再生センター内へ!**  
 有明水再生センターは、地下にある。そこはコンクリートで囲まれたため、携帯電話が通じない。  
 最初に「第一沈み池」に行くと、ここから来る水は、少ししかく生温か。だから「第一沈み池」に落とす。ここで「第一沈み池」で、反応槽で、微生物が活躍する。微生物は、このように「第一沈み池」で、反応槽で、微生物が活躍する。微生物は、このように「第一沈み池」で、反応槽で、微生物が活躍する。



発行者  
 国立学園小学校  
 望月里彩

9月10日は何の日か知ってる?  
 答: 下水道の日

**日本の歴史**  
 奈良時代(8世紀以前)の平城京には、おぼろげな排水路が、土間に作られていた。  
 安土桃山時代には、大阪城の城下町に、木間排水が作られ、今でも使われている。  
 明治時代、道路が狭い上に、汚水が流れる。石のふたを設置。  
 1955年(昭和30年)ごろ、川の水が、日本に汚れた。川の水を守ることが、環境保全。という大事な役割を、果たした。

**下水道の歴史**  
 7000年前 - 世界から。下水道が生まれた、と言われている場所。生かされた場所は、インド、メソポタミアと言われている。  
 しかし、まだまだ下水道が発達して、なかなか、公園などに建てられた。  
 19世紀ごろ、コレラが大流行。たくさん人が死んでしまった。そのため、世界各地で下水道が作られるようになった。  
 現存する、微生物を利用して、くわがせが開発されたのは、最近で、1914年(大正5年)のこと。

**クイズに挑戦**  
 下水道の歴史

## おもしろいマンホール

**カウマン**  
長野県上田市の野尻湖。マンホールの蓋は、野尻湖の石で出たもの。

**マグロ**  
横浜。マグロの水揚げ場。マンホールの蓋は、マグロの骨で作られた。

**阪神大震災**  
阪神大震災の復讐記念に作られた。

**横濱市環境創造局**  
横濱市環境創造局のマンホールの蓋は、横濱市の歴史を語る。

**大阪城**  
大阪城の近くにある。

**カジラ**  
1500年前のカジラの化石が発見された。

**天気予報**  
東京都庁のマンホールの蓋は、天気予報を伝える。

**多摩川と鯉の産卵**  
東京都庁のマンホールの蓋は、多摩川と鯉の産卵を伝える。

## 本物の下水道の中は...

